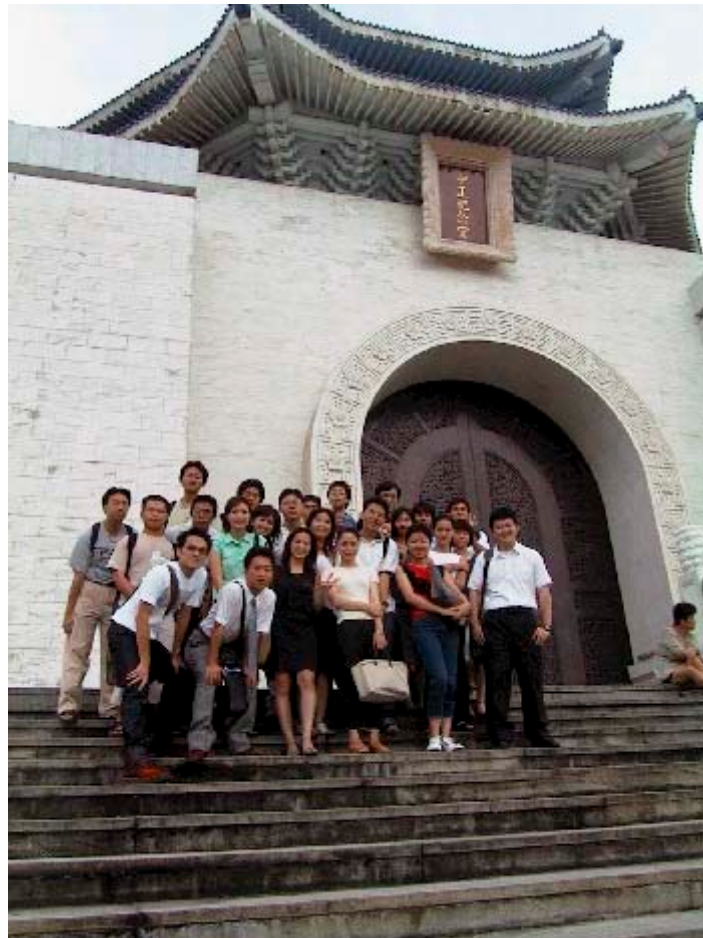


STUDY TRIP TO TAIWAN REPORT

2001



2001 July 2nd- 8th

alsa

The Asian Law Students' Association

Japan & Taiwan

目 次

	ページ
1.実行委員長あいさつ	2
2.日程	3
3.活動内容	
7月3日 開会式	4
立法院見学	5
交流協会表敬訪問	6
4日 Small Talk	8
刑務所見学	14
5日 法律事務所見学	17
伝統文化ツアー	19
6日 故宮博物館	21
ナイト・マーケット・ツアー	23
7日 淡水ツアー	24
閉会式	25
お別れ会	26
台湾の食事	27
Discussion	28
4.ご協力いただいた方々	81
5.参加者名簿	81
6.結び	83

1. 委員長あいさつ

21 世紀への展望 ～おなじ道を歩む者として～

今回の Study Trip では、事前勉強会において台湾の歴史に触れ、現地で台湾の“今”を体験し、さらに台湾の学生と共に、将来像を描いて行く機会にしたいと考えています。台湾という多様な背景をもつ同じアジアの一地域を、多角的に見つめること。それは、近いようで未だ遠い台湾を正確に理解すると同時に、自国を見つめ直す機会をも、私たちに提供してくれるように思います。

歴史は不可逆的なものであります。しかし、同時に今なお絶え間なく、未来に向かって進んで行くものでもあるはずで、21世紀という100年が広がってゆくこの門出の年に、歴史をふりかえり、そして前に進んで行こうとすることの意義、それは歴史という絶え間ない流れの中で、節目として、私たちの生きてきた20世紀という時代を顧み、それをこれから歩むべき道を見つけ出す糧とすることにあるのではないのでしょうか。様々な歴史や文化が交差するアジアにおいて、蓄積された事実を受け止め、互いを尊重し、認め合いながら、共に手を携えてこれからの21世紀を築き上げて行こうとするなら、それは豊かな経験として、必ずや実を結ぶものと信じております。

台湾に赴き、実際に法律に触れ、歴史に触れ、そして何よりも現地人と触れることで、台湾に対する理解を深め、同じアジアの学生として、また共に21世紀を担う者として、どのようにこの21世紀を歩んで行くべきか、その展望を共に模索する機会にできたら、と切に願っております。

なお、本企画実施に際しまして、財団法人交流協会より多岐に渡り多大なるご協力をいただきました。この場を借りまして、心より厚く御礼申し上げます。

Study Trip To 台湾 実行委員長
早稲田大学法学部3年 片桐 範子

2 . 日程

7/2-7/8 台湾研修旅行日程

	9:00 ~ 11:00	11:50 ~ 13:00	13:00 ~ 17:00	18:00 ~
7/2 (月)			18:40 出発	21:10 到着
7/3 (火)	9:00 開会式 9:30 ~ 11:30 ディスカッション	昼食	【見学】 ・立法院 ・交流協会	
7/4 (水)	9:00 ~ 11:30 Small Talk	昼食	【見学】 ・刑務所	鼎泰豊
7/5 (木)	9:00 ~ 11:30 ディスカッション	昼食	【見学】 ・総督府*1 ・法律事務所*2	伝統文化 ツアー
7/6 (金)	9:00 ~ 11:00 ディスカッション 11:30 閉会式	昼食	【見学】 ・故宮博物館	ナイト・ マーケット ツアー
7/7 (土)	淡水観光			お別れ会
7/8 (日)	9:10 出発		13:40 到着	

* 1 天候悪化のため中止

* 2 Baker& McKenzie (国際通商法律事務所)

3 . 活動内容

Opening Ceremony

早稲田大学 3 年 福岡 義樹

- 1 . 開会宣言
- 2 . 台湾側代表挨拶
- 3 . 日本側代表挨拶 (ALSA - Japan 副代表 棚村朋行)
- 4 . 日本側実行委員長感謝の辞
- 5 . 日本側一年生スピーチ (早稲田大学一年 守屋橋樹)
- 6 . 台湾側一年生スピーチ
- 7 . 自己紹介

台湾大学法学部棟の一室において、今回の Study Trip in Taiwan の開会式が行われた。日台の法学生の交流という、おそらく初めてであろう試みに皆、多少の緊張を隠しえない様子ではあった。

日台双方の代表による厳粛な挨拶が交わされた後、双方の一年生によるフレッシュなスピーチが交わされた。

そして、最後に参加者全員が各々自己紹介を行い、これから一週間に及ぶ Study Trip、日台法学生交流の基礎を育んだ。

5.ご協力いただいた方々

財団法人 交流協会 日台交流センター 所長 大和 滋雄 氏
野村 英登 氏
台北事務所 文化室 主任 等々力 研 氏
石崎 隆博 氏

東海大学法学部教授 法学博士 劉 得寛 教授

立法院 公共関係事務室 張 端明 氏

Baker & McKenzie 国際通商法律事務所 Mr. Kevin Liao
Ms. Carole C.P. Hsu

国立台湾大学研究員 / 立法委員国会助理 星 友康 氏

6.Study Trip to Taiwan 参加者名簿

日本

< 実行委員 >

実行委員長	片桐 範子	早稲田大学法学部	3年
副実行委員長	棚村 朋行	早稲田大学法学部	2年

< 参加者 >

石田 竜馬	中央大学法学部国際企業関係学科	3年
田上 和浩	早稲田大学法学部	3年
福岡 義樹	早稲田大学法学部	3年
鈴木 裕子	中央大学法学部政治学科	2年
渡辺 譲	東海大学法学部	2年
浦田 幸徳	早稲田大学法学部	1年
小谷野 初恵	早稲田大学法学部	1年
新谷 雄三	早稲田大学法学部	1年
守屋 栄橘	早稲田大学法学部	1年

以上 11 名

台湾

名前	English Name	所属大学	学年
曾文亮		国立台湾大学	大学院
林靖揚	Conrad	国立台湾大学	大学院
林佳瑩	Morrisa	国立台湾大学	大学院
張志朋	Xavier	国立台湾大学	大学院
黃孟浩	Nick	国立台湾大学	4年
鄭川如	Ariel	国立台湾大学	4年
蕭憲文	Simon	国立台湾大学	3年
蘇毓	Yu-Tin	国立台湾大学	3年
蘇卓寧	Tony	国立台湾大学	3年
黃立州	Norman	国立台湾大学	3年
韓敬麟	Linus	政治大学	3年
邱慈惠	Candice	国立台湾大学	3年
曾彦超	Samuel	国立台湾大学	3年
馮泓彬		国立台湾大学	3年
梁家羸	Vincent	国立台湾大学	2年
李益甄	Janice	国立台湾大学	2年
郭冠妤	Yvonne	国立台湾大学	2年
吳學媛	Morris	国立台湾大学	2年
杜思誠	Sean	国立台湾大学	2年
徐彪豪	Bobby	国立台湾大学	2年
嚴天琮	Adam	政治大学	1年
賴亦威	I-Wei	国立台湾大学	卒業生
Zhiming		国立台湾大学	留学生
Rudolf		国立台湾大学	留学生

以上 24 名

7 . 結び

Study Trip to 台湾 実行委員長

早稲田大学 3年 片桐 範子

「これも何かの縁ですよ。」

この言葉を思い出す。ちょうど2年前に参加した台湾研修旅行で、現地の学生に言われた言葉だ。台湾は約2千万、日本はその6倍の約1.2億もの人口を抱えている。その中であって、私たちが出会えた奇跡、おなじアジアの法学生として顔を合わせ、お互いを知り、理解し、そして共に歩んで行こうとする機会に巡り合えた感動・喜びを、彼は私たち一人一人に流暢な日本語で伝えてくれた。

あれから2年の時を経て、再び訪れた台湾。目に見えて成長し続ける経済、大量に流入し続ける日本文化、そしてますます日本に近づいている若者たち。そんな台湾の勢いに圧倒されると共に、時が経っても変わらずそこにある確かな絆に、感動せずにはいられなかった。それぞれの道を確実に歩み始めたかつての参加者。それでも合間を縫って再会のために足を運んでくれた者もいれば、この関係を分かち合い、さらに広げてゆくために今回共に力を合わせた者もいた。そして今回新たに出会った仲間たち。空港で大歓声とおもいきりの笑顔で私たちを迎え入れ、終始私たち日本人に思いやりと優しさをもって接してくれた台湾の学生、そして事前勉強会から報告書に至るまでの3ヶ月間、常にチャレンジ精神を忘れずに、真摯な姿勢で共に取り組んできた日本人参加者。一人一人がかけがえのない仲間である。また、本企画の趣旨に賛同し、惜しみないご協力・ご支援をして下さった日台交流センターの方々、事前勉強会でご講演いただいた判事補の李さん、企画書の段階から熱心にご指導くださった東海大学の劉得寛教授、陰で常に支えてくださった前実行委員の松岡純さん、寺門雅代さんに心からの感謝の気持ちをお伝えしたい。この成功は、こうした様々な方々に支えていただいた過程の中から生まれた必然的な結果である。参加者と、それを取り巻く方々のヒトとヒトとの繋がりが、どれだけ私を励まし、今回の Study Trip を素晴らしいものにしたか知れない。

これから広がる21世紀は、おそらく国際化が進み、より世界を身近に感じることができるようになるだろう。そこにあって変わってはならないもの、それは、こうしたヒトとの繋がりであり、そしてあらゆる背景を持つ者との対話を通じて、互いを正確に理解し、尊重し、認め合い、共に歩んでいこうとする

姿勢ではないかと思う。アジアはその多様性ゆえに、しばしば入り組んだ有様を露呈する。しかし同時にそこには、大きな希望と無限の可能性がひそんでいるのではないだろうか。私はこの研修旅行を企画し、参加した者として、こうした希望や可能性に前向きでありたいと思う。

この Study Trip は、日本人参加者にとって近くて“遠かった”台湾を、近くて“近い”ものを感じる絶好の機会であったのではないだろうか。ディスカッションや法律事務所、ナイト・マーケットにお寺、食事、歴史、そしてホームステイと、できる限り様々な切り口から台湾を現地の学生と一緒にのぞいてみることで、私たちは互いの類似点や相違点を知り、異文化に触れる楽しみを満喫できたように思う。

そして私は、こうしたすべてのことを含め、一週間という期間を台湾の学生と共有したことが、今、参加者一人一人の中で偉大な財産となっていると信じる。現地の学生と共にここで得た興味や刺激、そして新たに芽生えた友好関係を、これからの糧として大切に大切に育み、21世紀という新たな時代を共に担って行く大きな布石となることを、この Study Trip to 台湾 実行委員長として切に願っている。

空港での別れ間際、見送りに来てくれた台湾の学生達が私たちにこんな言葉を合唱してくれた “ALSA Japan, we love you!” 涙のあまり返すことのできなかつた言葉を、今ここで送りたい。

“ALSA Taiwan, we love you!”